

四万十大使の「森は海の恋人」講演

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、2月24日に大野見中学校、窪川中学校で行われました畠山重篤四万十大使の講演についてご紹介します。

畠山さんには平成12年より四万十大使として、四万十川流域の中高校で講演を行っていただき、今年4年目で流域8市町村を巡回しました。

「森は海の恋人」と題された講演では、非常に興味深い話がありました。以下に抜粋してご紹介します。

●東京湾と鹿児島湾の大きさはほぼ同じで、鹿児島湾の方が青く美しいのに、魚や貝の漁獲量は東京湾の方が30倍ほど獲れる。その理由は、東京湾は16本の川が流れ込んでおり、淡水と海水が入り混じった汽水域である。一方、鹿児島湾は桜島の噴火の影響でできたものであるため、川が運ぶ森林の恵みを享受できていないのだ。

●四万十川の河口沖に鯨がいるのは、好物のカタクチイワシがいるからで、そのカタクチイワシの幼魚の貴重な餌になっているのは、森林から流れてくる葉っぱに付く「ヤブレツボカビ」というバクテリアの一種である。ゆえに四万十川流域の森林が鯨を呼んでいるのだ。

●海には、大気の50倍の炭酸ガスが含まれており、その炭酸ガスを酸素に変えているのが、汽水域の植物性プランクトンと海藻である。その光合成の能力は、地球上の全森林の2倍程度あり、海の中に大森林があると近年言われた。海の大森林が弱化してくると、海から炭酸ガスが出てくることになり、こうなると地球の温暖化が急速に進むことになる。

●森がどんなに大きく育っても、川の流域に暮らす人々の自然に対する意識が変わらなければ、川も海もよくなる。

生徒たちは、身近な話から世界的な環境問題まで関連付けられた畠山さんの講演に聴きっていました。



▲大野見中学校での講演



Topics

物部川流域「こんなんやりゆう」発表会のお知らせ

物部川流域での環境保全活動の発表会を行ないます。午前中は、畠山四万十大使と滋賀県でなたね油の循環サイクルを提唱する「菜の花プロジェクト」の藤井絢子さんの講演。午後は発表会です。

●日時：3月21日(日)10:00~17:00

●場所：のいちふれあいセンター

●お問い合わせ：高知県環境保全課環境管理班 TEL.088-823-9686